



「できない」と言うより、「できる」と言う方がやさしい

つまづいたって いいじゃないか にんげんだもの ※原文通り記載

校長 永山 誉

夏休みの間、北校舎のトイレ改修の音が響いていた学校に、子どもたちの元気な声が戻ってきました。いよいよ2学期のスタートです。2学期は、校内音楽会や各学年の校外学習等、様々な行事や活動があります。また、2学期は、登校日数が80日と、1年の内でも最も登校日数の多い学期でもあります。2学期も子どもたちの学校生活が益々充実しますよう、保護者の皆様、地域の皆様には、これまでと変わらぬ学校教育への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

さて、子どもたちが成長していくためには、いくつもの困難に立ち向かっていかなければなりません。その困難を克服してこそ、新しい自分が開き、困難に立ち向かった力が次へと進む原動力にもなっていきます。しかし、最近の子どもたちの様子を見てみると、困難な場面に遭遇するとすぐにあきらめたり、努力なくして楽な道を選んだり、また、失敗や躓きを怖がり挑戦することをしなかったりする傾向にあるような気がします。もう15年以上も前のことでしょうか。当時NHKで放送していたドキュメンタリーシリーズ「プロジェクトX」の「執念が生んだ新幹線」の番組の中で紹介された、新幹線開発に携わった島秀雄(しまひでお)さんの言葉を、私は何かに挑戦する時、常に思い出しています。日本が世界に誇る新幹線の開発にあたっては、これまでのスピードの限界を超えるために様々な困難を克服して実現したとのこと。そのような中での開発者の言葉だけに、とても重みがあります。

「できない」と言うより、「できる」と言う方がやさしい。

何故なら「できない」と言うためには、
何千何百とある方法論の全てを「できない」と証明しなければならない。

しかし、「できる」と言うためには、
数々ある方法の中からたった一つだけ「できる」と証明すればいいからである。

すぐに「できない」とあきらめてしまう子どもたちには、ありとあらゆる可能性を追求する力や精神力を身に付けさせたいものです。

詩人であり、書家としても有名な相田みつをさんは、こんなことを言っています。

つまづいたって いいじゃないか にんげんだもの ※原文通り記載

挑戦することを怖がってしまう子どもたちには、こんな言葉をかけてあげたいものです。

2学期は、様々な活動を通して子どもたちが大きく成長する時期でもあります。子どもたちが成長するためには、多少の困難を克服する経験が必要です。子どもたちが様々な困難を乗り越えられるよう、教職員が一丸となって子どもたちを励まし支援しながら、成長を見守りたいと思います。

